

県酪だより

K E N R A K U D A Y O R I

2020

1

vol.265



年頭の挨拶

福島県酪農業協同組合

代表理事組合長

宗 像 実



謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

日頃、組合事業にご支援・ご協力を頂いておりますことに対して、厚くお礼申し上げます。

昨年は、平成から令和へと元号が変わり新たな時代の幕開けとなりましたが、春先は低温と日照不足の梅雨が続き、乳牛にとっては過ごしにくい気候から、八月には猛暑に見舞われ生産乳量が一気に落ち込む状況となり、秋には台風十五号・十九号・大雨と立て続けに自然災害が発生し、当組合においても牛舎一戸が水没し乳牛が死亡する被害や組合本所が水没する等甚大な被害が発生しました。

近年自然災害は頻発しており、これからも大規模な自然災害が相次いで発生することが予測され、被害を最小限に

留める準備が急がれます。

さて、東日本大震災並びに東京電力福島原子力発電所事故からすでに八年十カ月が経過しましたが、本組合の四十九戸の酪農家は未だ酪農再開には至っておりません。

帰還困難地域を除く避難指示区域の解除が進み、農業や産業の振興が図られてきましたが、原発事故からの復興は未だ完了へはほど遠いことから、創生復興期間終了後の新たな体制が示され、今後も復興庁による復興支援が継続されることとなりました。

この様な中で、復興牧場「株式会社フエリスラテ」の経営は五年目となり、飯館村に育成牧場を開設するなど新たな展開も進んでいます。

南相馬市に新たな復興牧場を建設する計画については、建設候補地の井戸水の確保ができず、新たに浪江町での事業実現に向けて着実に邁進しておりますが、組合員の皆様方をはじめ、行政・関係機関各位のご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

世界では、令和二年一月一日から発効する日米TAG（日米物品貿易協定）も含め、三大貿易協定が出揃い不安が増す中で、家族経営対策を含む更なる生産基盤強化対策が望ま

れるところです。

国内では、新たな加工原料乳補給金制度の二年目となり、生産者間の公平性や効率的な集送乳の観点から懸念されていた、二股出荷や組織間の移動等が起きており、指定団体の共販体制を維持強化することがさらに重要になっています。

また、令和二年度加工原料乳生産者補給金単価は、前年同額の「八円三十一銭」、集送乳調整金は前年より五銭値上げの「二円五十四銭」、単純合算で「十円八十五銭」となり、総交付対象数量は前年より五万トン多い「三四五万トン」の結果となりました。

本年は、「第七次中期経営三カ年計画」の最後の年であり、グループ企業である酪王乳牛(株)・(株)らくのう乳販との連携を密にし、将来に亘り組合員の負託に応え得る組織として積極的に事業を展開する所存であります。

元号が変わって初めての新年を迎えた令和二年は、二度目となる東京オリンピックが開催され、海外からの訪日客

が押し寄せることが予想されており、乳製品を通じ日本酪農をアピールする絶好の機会と思われまふ。

本年も福島県酪農の力強い発展のため、ご指導・ご鞭撻

新年を迎えて

福島県農林水産部

部長 松崎 浩司



謹んで新年のごあいさつを申し上げます。

昨年十月に発生した台風十九号は、東日本の広範囲で河川の氾濫等を招き、本県畜産・酪農関係にも多大な被害をもたらしました。被災された皆様に心からお見舞い申し上げます。

貴組合並びに組合員の皆様には、日ごろ、本県酪農の振

の程よろしくお願い申し上げますとともに、組合員の皆様にとって幸多い年でありますことをお祈り申し上げ、新年のご挨拶と致します。



興を通じ県勢発展に御尽力をいただき、厚く御礼申し上げます。組合員の皆様は、愛情を持って乳用牛の飼養管理をされ、日夜細心の注意を払い、安全・安心な生乳生産に取り組まれており、そのためまぬ御努力に心から敬意を表します。

さて、昨年は、飲用向け乳価の引き上げや、数年にわたる全国的に高騰していた初妊牛価格が低下基調にあることなど、酪農業界にとって明るい兆しが見えはじめた年でありました。

一方で、生乳の増産が進む

北海道と、本県を含む都府県酪農の生産基盤の差が顕著となつてきております。生産基盤を再構築し、本県酪農を持続的に発展させるためには、「経営規模の拡大」、「乳用牛の改良」、「経営能力の向上」を一体的に進めていく必要があります。

県といたしましては、引き続き国と連携し、施設整備や機械導入、さらには優良な乳用牛の導入や自家保留を推進するとともに、酪農後継者の経営管理能力や飼養技術の向上を支援するなど、酪農生産基盤の強化を進めてまいりますので、皆様の御理解と御協力をお願いいたします。

今年、復興・創生期間の最終年度となる令和二年度を迎えます。

本県は、震災から八年十か月を迎えた今もなお、四万人を超える方々が避難生活を続けておられます。農業分野においても根強い風評や、担い手の不足など様々な課題が残されております。

県といたしまして、復興に向けた歩みを加速化させる

ため、その過程で新たに顕在化する課題にもしっかりと対応してまいります。貴組合におかれましては、引き続き復興の一翼を担うとともに、農業再生の動きを力強くけん引してくださいませようお願いいたします。

結びに、皆様におかれましては、本県酪農の振興に向け、一層の御尽力をお願い申し上げますとともに、今後の益々の御発展と御健勝をお祈りいたしまして、新年のごあいさつといたします。



新年のご挨拶

日本酪農政治連盟福島県支部連合会

会長 木目澤 次男



輝かしい令和二年の新春にあたり、心から御祝いを申し上げます。

会員の皆様には常日頃から温かい御支援・御理解のもと酪農政治連盟活動に御協力をいただいておりますことに心から御礼を申し上げます。

昨年は台風十五号並びに東日本を縦断した台風十九号により多くの犠牲者を始め住宅の倒壊、浸水等甚大な被害をもたらしました。本県においても牛舎の水没による酪農被害・停電や道路寸断等により生乳の廃棄が発生いたしました。ここに被害を受けた方に対して心よりお見舞い申し上げます。

令和二年度の酪農対策等の



政策の実行につきましては、政府原案といたしまして、加工原料乳生産者補給金制度に基づく交付単価は一キロあたり十円八十五銭とし昨年に比べ五銭引き上げで着着いたしました。うち条件不利地域からの集送乳経費を助成する「集送乳調整金」は五銭引き上げで同二円五十四銭となります。日本酪農政治連盟としては、台風十五号・十九号等被害への支援対策に関する緊急要請を十一月二十日に政府与党に対して実施いたしました。また、令和二年畜産物価格及び関連対策に関する要請では、経営意欲、担い手意欲を促す加工原料乳補給金及び集送乳調整乳単価の実現、生産者間の不公平感を回避するための指定団体機能維持、家族型酪農を中心に経営継続、担い手確保のために酪農ヘルパー事業に対する支援対策の継続と

充実を要請いたしました。最後になりますが、会員皆様にとりまして、すばらしい

新年のご挨拶

全国酪農業協同組合連合会 仙台支所

支所長 白鳥 建樹



謹んで新年のご挨拶を申し上げます。日頃より本会の全酪連の各種事業に格段のご配慮、ご協力を賜り厚くお礼申し上げます。昨年は酪農業界の中で大きな出来事として飲用向け乳価キロ当たり四円の値上げが実現しました。酪農生産基盤の維持強化を考えた時、販売物の値上げは営農の生産意欲の向上や担い手の確保を促す事に影響する重要な要因であると思います。しかし一方で日本の多くの産業で

一年でありますことを祈念いたしまして新年のご挨拶いたします。

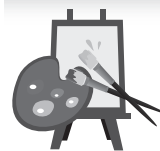


労働力の不足が言われてきており、またそこからくる生産・物流コストに増加も昨今では色々な方面での課題となってきたいます。酪農においても、家族経営型・メガ・ギガ問わず経営内の労働力確保、又ヘルパー人員の確保などや、流通においては、牛乳・飼料の配送のドライバールの確保などの人材確保も課題となってきたいます。また昨年は自然災害が日本全国を襲いましたが、特に東北地区をはじめ東日本の広い範囲で台風十五号、十九号が甚大な被害をもたらしました。特に福島県では河川の氾濫堤防決壊などに牛舎の浸水により酪農

家への被害をはじめ、貴組合の本所建屋及び飼料倉庫、立体倉庫なども浸水し大変な被害が出ましたが、宗像組合長はじめ役職員の適切な判断と尽力により酪農家への飼料供給も大きく滞りことなく供給体制が維持できたことに敬意を表すると共に弊会としても感謝の念が尽きません。東日本大震災と東京電力福島原子力発電所事故から九年目になろうとしている今も生乳の放射線物質検査や自給飼料のモニタリング検査を行い風評被害等の課題に取り組む事は今も変わらない中で、新たな復興牧場の計画に取り組むなど明るい希望も見えています。弊会も福島県酪農協の発展と組合員の皆様の継続的な酪農経営に向けて、酪農の現場に寄り添い、なお一層の努力を重ねて参る所存です。今後ともご協力頂けるようお願いいたします。最後に貴組合と組合員の皆様との健康と組合員の皆様の発展とご健康をお祈りいたしまして、新年のご挨拶いたします。

令和
元 年度

第三十回



ミルキー図画コンクール



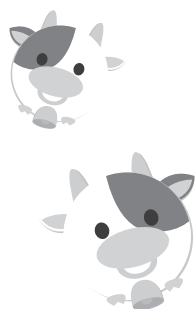
● 審査結果発表 ●

芳山小学校（郡山市）、大野幼稚園（相馬市）、飯豊幼稚園（相馬市）を表彰式訪問しました。

福島県牛乳普及協会主催による第三十回ミルキー図画コンクール審査会が十一月八日（金）に福島トヨタクラウンアリーナ（福島市）で阿部先生（大森小学校）を審査委員長に、中村主任主査（福島県畜産課）、宗像会長（県牛乳普及協会）の三名による審査員で審査会が実施されました。

今年度は、幼稚園・小学校から一四二校二、三八二点（前年二、一六三点）の応募が有り、昨年を二一九点上回る応募状況でした。各部の最優秀作品は以下のとおりです。

区 分	学 校 名	年齢・学年	氏 名
幼稚園年少組	相馬市立大野幼稚園	4歳	安藤 茜（あんどう あかね）
幼稚園年長組	相馬市立大野幼稚園	5歳	後藤 鈴蘭（ごとう りら）
小学校低学年	郡山市立永盛小学校	1年	橋本 悠希（はしもと はるき）
小学校中学年	郡山市立芳山小学校	3年	栗林心彩桜（くりばやし いろは）
小学校高学年	いわき市立渡辺小学校	5年	鵜沼 蒼生（うぬま あおい）



小学校の最優秀賞、優秀賞を受賞した芳山小学校に十二月五日、幼稚園の最優秀賞を受賞した大野幼稚園、優秀賞を受賞した飯豊幼稚園に十二月六日に表敬訪問し、記念品と併せて賞状授与をしました。

今後、郡山市と福島市の二か所での作品展示と、入賞作品を集めた新年度カレンダーを作成し応募頂いた学校に送る予定をしています。

《作品展示期間・場所》

福島市：令和2年3月17日（火）～22日（日）
コラッセふくしま1階展示スペース
郡山市：令和2年3月26日（木）～31日（火）
イトーヨーカドー郡山店1階展示スペース



芳山小学校表彰



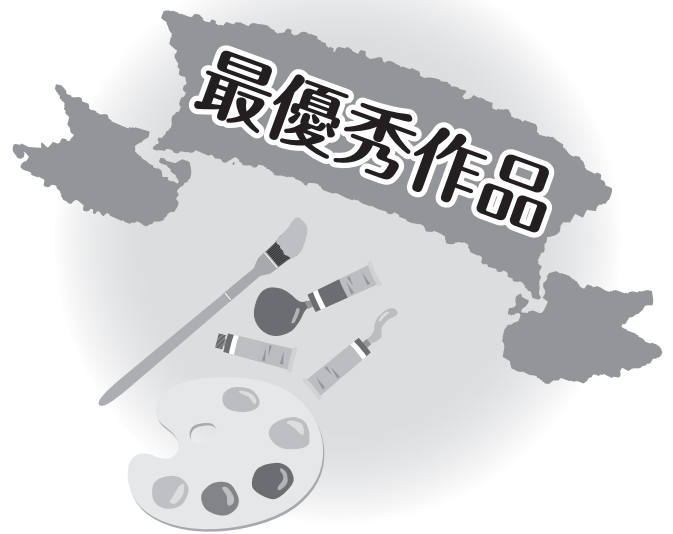
大野幼稚園表彰



飯豊幼稚園表彰



● 幼稚園の部（年少組）4歳 安藤 茜 ●



● 幼稚園の部（年長組）5歳 後藤 鈴蘭 ●



● 小学校の部（低学年）1年 橋本 悠希 ●



● 小学校の部（中学年）3年 栗林心彩桃 ●



● 小学校の部（高学年）5年 鶴沼 蒼生 ●

やまびこ会

牛乳価値向上事業 料理講習会を開催しました



去る十二月十一日(水)県酪女性部やまびこ会(会長 福田祐子)は、牛乳価値向上事業として、森永乳業(株)東北支店が行っている事業の「M'S Kitchen」出張料理講習会を実施しながら、牛乳乳製品の知識を深め、消費者の皆様にお伝えする為の勉強会を行い、今後の活動の中で生かしていこうという目的で開催いたしました。

講師に管理栄養士 辻匡子先生をお迎えし、「運動応援コース」の調理実習と「腸活と健康」についてご講演をいただきました。

調理実習では、辻先生も驚くほどの手際の良さで、一時間弱で三品を仕上



「M'S Kitchen」運動応援コースメニュー

- さば缶のふわふわつくねバーグ
- 切り干し大根のさっぱりサラダ
- ヨーグルトミルクプリン

げておりました。

今回、紹介していただいた牛乳乳製品の料理は、さば缶を使用したり、ヨーグルトを使用したサラダやデザートで子供から大人まで美味しくいただけるメニューでした。

講演会のテーマでもある「腸活と健康」について、様々な研究から健康のカギは大腸にあることがわかってきて、腸内の善玉菌は消化を助け病気の抵抗力をつけると言われ、悪玉菌は血管を通し様々な病気の原因にもなると言われています。腸内には善玉菌は二割、悪玉菌は一割、その他七割と言われているが、現在は

生活習慣の乱れから割合が逆転しているといえます。どのような食生活をすれば健康になれるのか？そこでおすめなのがビフィズス菌が生きたまま腸まで届くヨーグルトです。ビフィズス菌は、整腸作用がある「乳酸」と、より強い殺菌作用がある「酢酸」を作りだし、悪玉菌を撃退します。ホットヨーグルトで食べる際には、菌は六十三℃で死滅してしまう為、温度に注

意しながら温め、お好みで砂糖を加えたりして美味しくお召し上がりくださいとのことでした。

その他、料理を作る際のアイディアや腸活のお話を伺い、牛乳乳製品の知識が深まっていきました。今後地域の方々に牛乳乳製品が健康維持の為にどのような役割・効果があるのか等をPRしていきたいと思いました。



福島県酪農 青年研究連盟

第二回酪青連後継者支援研修会開催

十二月十六日(月)に磐梯熱

海温泉ホテル華の湯において、第二回酪青連酪農後継

者支援研修会を開催致しま

した。本研修会は、次代を

担う酪農後継者の経営・技

術の資質向上に資するた

め、福島県による酪農後継

者経営・技術向上支援事業

を利用した研修会となつて

おります。当日は会員・各

団体より約四十名の方々が

参加しました。

講師に、アグリビジネ

ス・ソリューションズ株

式会社 代表

森 剛一先生

をお迎えし、

「酪農経営・

酪農協におけ

る軽減税率制

度の影響」と

いう題で、消

費税の仕組み

や軽減税率制

度のおさらい

から始まり、

令和五年十月

から始まるイ

ンボイス制度

の内容・酪農経営に与える

影響等についてご講演いた

だきました。

参加者の方々は真剣な様

子で講演を聞いており、開

催後のアンケートでは、今

後の経営の参考にしたいと

いう声や、インボイス制度

を理解した上で制度開始に

備えたいという声が多く上

がっております。全体的



な感想も概ね良好で、大変有意義な研修会となりました。

本研修会は年度内に残り二回の開催を予定しております。これからの酪農を担う若手酪農家、後継者の方にとって非常にためになる研修会を企画しておりますので、是非ご参加下さいますよう、お願い致します。

東北酪青女

秋季酪農研修会 in 秋保温泉



令和元年十一月二十六日(火)～二十七日(水)に東北酪農青年女性会議の秋季研修会が開催されました。今年度は宮城県仙台市にある秋保温泉を会場に、東北各地の酪友が五十二名参加し、また古くから交流のある渋谷区少団連サポートクラブからも二名の参加がありました。

研修では、宮城大学食産業学部教授の井上達志先生より「A1ミルク・A2ミルクについて」、仙台国税局課税第二部消費税課 佐々木和夫氏より「消費税軽減税率制度について～青色申告に向けて～」と題してお話いただきました。最近話題となることが多いA1ミルク・A2ミルクについての話では、牛乳輸出九五%であるニュージーランドが先駆けとなっており、国内の牛乳をいかに売り込み、輸出するかというところで差別化の為に発見されたというものでした。A1ミルクは牛乳中のタンパク質「A1型βカゼイン」を含む牛乳で一般的に流通しているもので、A2ミルクとは牛乳中のタンパク質「A1型βカゼイン」を含まない牛乳のことで、下痢をしにくい、お腹に優しいなどと言われています。タンパク質を作る遺伝子が突然変異し

たことで、A1型βカゼインが含まれるかどうかが決まり、一般的に飼養されているホルスタイン種では半分が遺伝子の突然変異が起こっているため、売られている牛乳はA1ミルクということになります。

A2ミルクを飲むと健康的によい等、研究データがありますが、まだ確実なことは言えていないとのこと。今後の研究に期待されているそうです。

消費税の軽減税率制度については、すでに皆さんご存知かと思いますが、十月以降で食品に関して軽減税率制度が導入され、九月までの消費税八%と十月以降の軽減税率八%では地方消費税率などが異なってくる為、二つの期間に分けて処理するようになど様々な留意点の説明がなされました。

東北各地の酪友が集い、情報交換することができるとてもよい時間となりました。

県南支所主催

「消費税軽減税率制度研修会」が開催される

去る十一月二十七日(水)県南支所において「消費税軽減税率制度研修会」を開催し二十名が参加しました。

平成三十一年一月に全酪連企画管理部総合企画室長 丹戸靖先生を講師に「消費税軽減税率制度に備えて」と題し講演頂き、引き続き第二回目として令和元年十月乳代精算終了後に研修会を開催し経理・記帳・入力がスムーズに行い確定申告ができるよう開催しました。



講師には全酪連購買生産指導部酪農生産指導室 大和田善正先生をお迎えし「酪農業と消費税の軽減税率制度」と題し内容は①制度の概要 ②軽減税率対象範囲 ③酪農業における軽減税率 ④経理と記帳と決算 ⑤毎月の資金繰りと年間の資金繰り ⑥インボイス(適格請求書)について要点を絞りわかりやすく講演いただきました。

十月以降の乳代精算書及び各種支払いについて消費税一〇%、軽減税率が適用される八%について間違いのない経理・記帳が必要となりますが、年内に九月分まで経理処理・入力をすませておくこと十月から十二月分までの経理処理が大変楽になると話されていました。

また十月以降の毎月の資金繰りについては、生乳の販売代金は消費税八%ですが、係る経費の軽減税率を含む消費税は増税されたこと



により、増税前と比較すると消費税分差引手取り額は減りますが、年間の資金繰りで見た場合は消費税申告による消費税納税額が減ることから、年間の収支に影響がないと話されていました。

また、質疑応答についても質問が尽きず盛会裏に終了することができ、非常に有意義な研修会となりました。

福島大学農学支援基金への寄付について

福島大学では教員や学生の教育・研究活動等を継続的に支援するための「福島大学農学支援基金」を立ち上げ、本県の農業の再生・復興に資する本学の取り組みに賛同する法人や個人に対して基金を募集しており、本組合としても趣旨に賛同し基金へ拠出することが理事会で承認されており、十二月に同大学を訪問し基金を贈呈いたしました。

なお、福島大学とは復興牧場完成後に連携することを合意しており、連携内容については今後協議してまいります。

福島県酪農業協同組合様
農学支援基金への寄附金贈呈式

福島大学農学群食農学類

福島大学農学群食農学類
生源寺眞一教授

宗像組合長

組 合 の 動 き 12 月

12月3日 福島県乳牛改良推進協議会幹事会
 12月6日 福島県獣医師会第4回理事会
 12月12日 福島県酪農ヘルパー利用組合理事会
 12月13日 セリ市場

12月18日 酪王乳業㈱取締役会
 12月24日 福島県乳牛改良推進協議会理事会
 12月24日 福島県農業会議常設審議委員会
 12月26日 第9回経営検討会

福島県酪農業協同組合
 生産部 購買畜産課

令和2年1～3月の牛用飼料価格について

令和元年度第4四半期（令和2年1月～3月）の牛用飼料（配合・哺育）につきまして、下記のとおり価格改定を致しますのでご案内申し上げます。

記

改定額（令和元年10～12月期対比）

- （1）牛用配合飼料 トン当たり 850円値上げ
- （2）牛用哺育飼料 トン当たり 5,000円値上げ

原料情勢等につきましては、以下のとおりです。

主原料である米国産とうもろこしは、12月10日米国農務省の需給予想において2019年産の生産量は3億4,701万トン・前年比94.7%、単収は167.0ブッシェル／エーカー、総需要量3億5,346万トン、期末在庫4,852万トン、在庫率13.7%と発表されました。

米国産とうもろこしについては、収穫の遅れに伴う生産量の減少懸念によりシカゴ相場が一時期上昇したことから、前期比値上げ基調となっています。

大豆粕については、米国産大豆の作付遅延による作柄への懸念から、相場は堅調に推移していました。12月以降は南米産大豆の作付進捗が順調な

見通しから、やや軟調に推移していますが、総じて前期比値上げとなっています。

糟糠類については、グルテンフィードは夏季の天候不順の影響で、需給は非常に逼迫しており相場は高値で推移しています。一方、ふすまは製粉メーカーの小麦挽砕量が減少傾向にありましたが、年明以降は増加する見込みであることから需給は適性に推移するとみられます。

脱脂粉乳については、豪州の干ばつによる生産量の減少と、中国、東南アジアの旺盛な需要からオセアニア産、欧州産ともに相場は上昇しています。

海上運賃については、石炭の需要が一服し余剰感が出たことや、西豪州積み極東向け鉄鉱石輸送の減退などで大型船を含む全ての荷動きが停滞したことで下げ基調でしたが、年末に向け需要が戻り、上昇基調に転じています。

為替相場は、米国株が堅調なことからドルが買われ、前期に対して円安傾向となっています。今後についても米中の第一段階の貿易合意などの進展により、ドルは堅調に推移することが予測されます。

以 上

ZENOAQ コーナー Vol.181



クリプトスポリジウム による下痢症について

〒963-0196

福島県郡山市安積町笹川字平の上1-1

日本全薬工業(株) 福島営業所

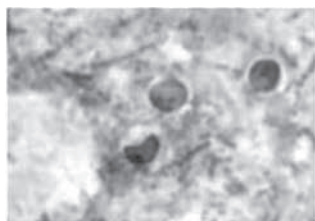
TEL024-945-2306 FAX024-945-9345

■薬が効かない子牛の下痢に困っています。

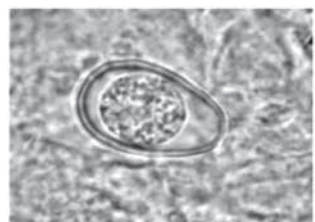
ある牧場の悩み「最近、生後1～2週齢の子牛で黄色の水様下痢がいっぱいです。抗菌剤を使ってもあまり良くならないし、その後少し良くなっても軟便が続いて困ってます。糞便検査の結果では、新生子牛下痢に代表的って言われてるロタウイルスや毒素原生大腸菌じゃないって言われたんですけど、いったい何が原因なのでしょう？」

このような場合「クリプトスポリジウム症」が疑われます。近年、コクシジウム症と共に全国的に蔓延している原虫感染症です。

■新生子牛で問題となるクリプトスポリジウム



クリプトスポリジウム
(約5 μm)



コクシジウム
(約25 μm)

牛のクリプトスポリジウム症は、*Cryptosporidium parvum*（以下Cp）が原因の原虫性下痢症です。子牛下痢便のCp検出率は52%（小岩ら2007年）との報告もあり、これまで主原因とされてきたロタウイルスやコクシジウムに並ぶ発生状況で、他の病原体との混合感染も多く、全国的に発生が見られます。

子牛にCpが感染すると、3日～6日の潜伏期を経て下痢を発症し、便は粘膜が混入した黄白色の泥状あるいは水様性の糞便性状を示します。消化吸収不良性の下痢ですので、子牛は体力を消耗し、顕著な沈うつ症状（吸乳力が弱く、フラフラした歩様、ミルクを飲んだ後すぐに寝る等）を示します。3日齢～4週齢の若齢子牛に好発し、厳寒期（12月～2月）に発生頭数及び死亡頭数が増える傾向を示します。

以下にコクシジウム症との違いをまとめました。

	クリプトスポリジウム症	牛コクシジウム症
発症ステージ	3日齢～14週齢 1か月齢以下で多い	3週齢～6か月齢 1か月齢以降で多い
宿主	牛・豚・犬など 人獣共通感染症	牛のみ
治療薬	なし	あり

参考文献：獣医臨床寄生虫学（産業動物編）及び牛病学（第3版）

■クリプトスポリジウムが問題となる理由

消毒が難しい

感染牛の便からCpのオーシストが大量に排出されることで、農場汚染が悪化します。オーシストは、湿潤な環境で感染力が持続し、抵抗性も強いいため消毒による清浄化は難しいと言われています。

※オーシストとは

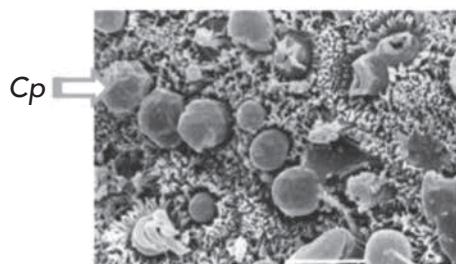
Cpが外界に排出される際の形態のことで、排出直後から感染性を持っています。

若齢での感染

生まれたばかりの子牛は、母親の初乳から受け取る移行抗体（IgG）に免疫のほとんどを頼ることになります。しかし、初乳中のCpに対するIgGでは十分な防御ができません。加えて、この時期における子牛自身の免疫機構は未熟であり、大腸菌やロタウイルスといった病原体と複合感染するとさらに悪化することがあります。

特効薬なし

Cpは腸管粘膜上皮細胞の微絨毛内に寄生し、血中の薬剤や生体の免疫から逃れることができるので病原性が強いと言われています。クリプトスポリジウム症対策は種々ありますが、現状国内ではすぐに効果を示す治療薬はありません。



微絨毛内における多くのCp寄生

■現場でできる対策は？

病原体対策



- ・感染牛を隔離する
- ・敷料をこまめに交換する
- ・施設を徹底消毒する（オーシスト対策）
～ 72℃以上の熱湯消毒、スチームクリーナーや高温洗浄器の使用等
※子牛施設への石灰乳塗布や一般的な消毒（グルタルアルデヒド製剤等）を合わせて実施することが推奨されています。



個体対策



寒さ対策

- ・免疫力を高める
～ 栄養状態改善、寒冷等によるストレス対策
免疫に関連する製剤の給与等
※子牛の代用乳へのオオバコ製剤や木酢と炭素末製剤の添加も感染予防に有効とされてます。

☆発症した際には、上記の対策とあわせて経口補液などの脱水対策が重篤化防止のために必要です。

カーフサポート6の応用を…



新生子牛の下痢症で問題となる病原体に対応した鶏卵抗体（IgY）
（大腸菌、ロタ、コロナ、サルモネラ、+クリプトスポリジウム、クロストリジウム）



腸管の防御能を高める

詳しくはゼノアックスタッフにお尋ねください

乳牛頭数調査集計表（公共機関を含む）

2019年11月30日現在

区 分	酪農家戸数			乳 牛 頭 数									
支 所 名 称	戸数	前年度 戸 数	前年比	育成	初妊	経 産 牛				合計	前年度 頭 数	前年比	1 戸当 り頭数
						乾乳 妊娠	妊娠 搾乳	空胎 搾乳	小計				
県 北 支 所	戸 36	戸 40	% 90.0	頭 645	頭 188	頭 213	頭 363	頭 905	頭 1,481	頭 2,314	頭 2,184	% 106.0	頭 64.3
県 中 支 所	76	81	93.8	373	136	196	308	896	1,400	1,909	1,949	97.9	25.1
浜 支 所	8	10	80.0	103	36	24	49	146	219	358	329	108.8	44.8
県 南 支 所	42	45	93.3	663	282	283	578	988	1,849	2,794	2,732	102.3	66.5
県 酪 合 計	162	176	92.0	1,784	642	716	1,298	2,935	4,949	7,375	7,194	102.5	45.5

区 分	月 別 分 娩 予 定 頭 数							販 売 乳 量				
支 所 名 称	2019 12月	2020 1 月	2020 2 月	2020 3 月	2020 4 月	2020 5 月	2020 6 月	生乳 出荷 戸数	地域別販売乳量		1日1頭当り乳量	
									1日当り	1日1戸 当り	搾乳牛	経産牛
県 北 支 所	頭 117	頭 151	頭 115	頭 108	頭 86	頭 82	頭 105	戸 36	kg 34,733	kg 965	kg 27.4	kg 23.5
県 中 支 所	105	122	64	89	76	58	126	76	30,234	398	25.1	21.6
浜 支 所	15	18	13	12	15	15	21	8	5,541	693	28.4	25.3
県 南 支 所	190	167	149	151	139	119	228	42	41,129	979	26.3	22.2
県 酪 合 計	427	458	341	360	316	274	480	162	111,636	689	26.4	22.6

令和元年度受託乳量の状況

令和元年11月の受託乳量は、県全体で前年比98.2%の実績でありました。

団体別の受託乳量は、本組合が3,349ト、前年比98.9%（対前年同36ト減）、全農県本部は1,598トの対前年比96.7%（対前年同月54ト減）の実績でありました。東北生乳販連の受託実績については、前年比99.3%となりま

した。

東北6県の中で青森県が5,763ト対前年比104.5%、岩手県が15,297ト対前年比103.3%で前年より伸びました。

なお、全国の受託実績は対前年比100.3%となりました。

令和元年度用途別販売乳量の状況（東北全体）

11月東北全体の用途別販売状況については、加工向けが128.0%、醗酵乳向けが104.7%と前年を上回り、飲用向けが97.6%、学乳向けが93.6%、生クリーム向けが81.9%、チーズ向けが75.3%と前年を下回り推移した。

なお、今月の酪王乳業の生乳使用量は日量平均51.7ト（前年比99.3%）で、本組合生産量の46.3%、県全体生産量の31.3%を処理しています。

令和元年度11月別支払乳価表

11月分支払乳価については、前年と比べ、飲用向け及び醃酵乳向け4円値上げされ、学乳向け・加工向け・生クリーム等向け・チーズ向け価格は据え置きで取引され、前年対比でプール乳価、補給金、集送乳調整金単価合せて前年より5円62銭1厘上回る単価となりました。令和元年10月から消費税増税に伴う軽減税率適用開始により、これまでプール乳価計算時に控除されていた、全国連手数料・販売手数料・年度末精算資金がプール計算後の乳代精算控除項目として控除されることに伴い、前年よりプール乳価は高くなりました。

(東北全体11月)

用 途 別	販売乳量 (トン)	日 量 (トン)	前年比 (%)	シェア (%)
飲 用 向 け	28,115	937.0	97.6	69.7
加 工 向 け	2,410	80.0	128.0	6.0
学 校 給 食 向 け	2,702	90.0	93.6	6.7
醃 酵 乳 向 け	6,268	209.0	104.7	15.5
生クリーム向け	693	23.0	81.9	1.7
チ ー ズ 向 け	145	5.0	75.3	0.4
合 計	40,333	1,344.0	99.3	100.0

備考

1) 買取乳量を除く

■東北全体プール乳代金 4,185,054 千円 単価111.210円

■内 福島県分プール乳代金① 472,010千円 単価111.210円

プール対象外乳代金② 98,311千円

(学乳向け・買取向け乳代金)

合計乳代金①+② 570,321千円 単価115.285円

項 目	令和元年11月	前年同月	増 減	前々年同月
プール乳価	111円943	106円423	5円520	106円263
補給金単価	0円663	0円587	0円076	0円739
集送乳調整金単価	0円198	0円173	0円025	0
合 計	112円804	107円183	5円621	107円002

(注) 上記合計は、脂肪率3.5%・無脂固形率8.3%の補給金込みの乳価。

平成30年4月より加工原料乳(加工・生クリーム・チーズ向)に対し、補給金と集送乳調整金の2つに分け支払いをしています。

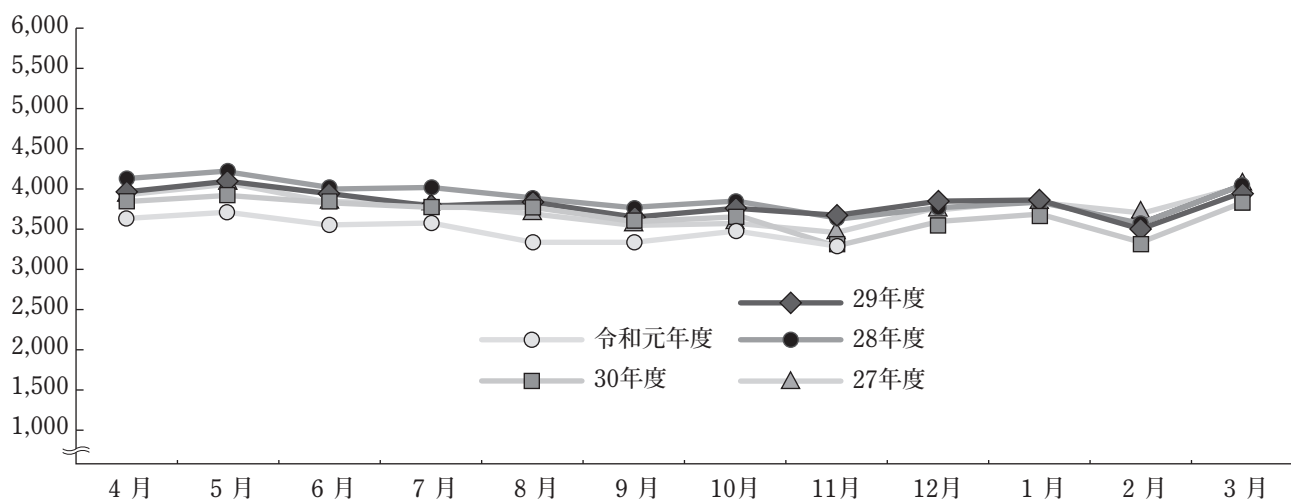
団体別受託乳量の状況

団 体 名	11 月 分		
	受託乳量 (トン)	日 量 (トン)	前年比 (%)
県 酪 協	3,349	111.6	98.9
全農福島県本部	1,598	53.3	96.7
合 計	4,947	164.9	98.2
東北生乳販連	40,334	1,344.5	99.3
全 国	554,963	18,498.8	100.3

月別受託乳量 県酪協(トン)

年度\月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合 計
27年度	3,921	4,061	3,836	3,802	3,658	3,513	3,575	3,486	3,668	3,830	3,708	4,071	45,129
28年度	4,094	4,231	4,025	4,029	3,894	3,717	3,839	3,664	3,822	3,889	3,576	4,031	46,811
29年度	3,958	4,132	3,940	3,880	3,778	3,622	3,740	3,637	3,797	3,820	3,498	3,948	45,750
30年度	3,865	3,927	3,768	3,758	3,757	3,565	3,617	3,385	3,572	3,687	3,369	3,818	44,091
令和元年度	3,661	3,736	3,526	3,528	3,380	3,391	3,495	3,349					
前年比%	94.7	95.1	93.6	93.9	89.9	95.1	96.6	98.9					

単位・トン



年次別・月別支払乳価一覧（補給金・集送乳調整金を含む）

年 度	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10月	11月	12月	1 月	2 月	3 月	平均
令和元年度	107.825	109.442	110.235	109.707	109.001	110.834	113.758	112.804					
30年度	105.316	106.566	107.245	106.734	104.684	108.041	107.673	107.183	104.902	105.545	106.664	104.358	106.242
29年度	105.107	106.247	107.367	106.918	104.637	107.789	107.187	107.002	104.876	105.603	106.317	104.647	106.141
28年度	105.156	106.012	106.878	105.825	104.876	107.459	107.162	106.517	104.921	105.823	106.675	104.617	105.993
27年度	105.116	105.882	106.888	105.964	105.240	107.090	107.342	106.859	105.204	105.468	106.726	104.446	106.019

第290回 県酪協乳牛市場成績

令和元年12月13日開催

購買者数 25名（うち県外9名）

区分	畜種	雌雄	成 立 数 (成 立 率)	最 高 価 格 最 低 価 格	平 均 価 格 (前 回 比)	平 均 体 重 (前 回 比)	平 均 単 価 (前 回 比)
ET和牛 初 生 牛	ET和牛	メス	2 (100)	426,000 418,000	422,000 (140)	86 (105)	4,936 (134)
		雄	17 (100)	557,000 395,000	488,882 (97)	105 (98)	4,635 (99)
	乳 牛	メス	2 (100)	35,000 14,000	24,500 (111)	63 (105)	389 (106)
		雄	64 (100)	158,000 13,000	97,141 (90)	72 (101)	1,340 (89)
	交 雑 牛	メス	88 (100)	274,000 79,000	219,011 (105)	74 (104)	2,945 (101)
		雄	90 (98)	351,000 109,000	262,233 (105)	81 (105)	3,239 (100)
初 妊 牛			19 (100)	820,000 603,000	697,737 (95)		
搾乳用雌子牛			17 (100)	364,000 184,000	251,176 (88)		

価格：円（落札価格） 率・比：％ 体重：kg

初生牛の畜種別価格帯毎分布表

（0は0.1～0.9万円、1は1.0～1.9万円、以下同様。尚、落札価格です）

畜 種	雌雄	価 格 帯 (万円)																								
		<31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55
ET和牛	メス											1	1													
	雄									1					3		1	1	1	2	2	3	1		1	1
畜 種	雌雄	価 格 帯 (万円)																								
		0<	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24
乳 牛	メス		1		1																					
	雄		2	2	4		3	4	5	4	5	8	5	5	10	6	1									
畜 種	雌雄	価 格 帯 (万円)																								
		<11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35
交雑牛	メス	7	1	1	1	3	1	2	4	3	2	7	5	9	8	17	15	2								
	雄	2						1		1	1	3	3	4	7	6	21	15	15	5	1	2		1	1	1

初妊牛・搾乳用雌子牛の価格帯別分布表

価格帯 (万円)	50	～	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82
初妊牛			1	1	3			1			2	2		2		2	1		1	2					1
価格帯 (万円)	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36
搾乳用雌子牛							1	3		1	4	2				1	1		1			1		1	1

令和元年度 牛乳・乳製品利用料理コンクール 福島県大会入賞レシピ



山椒香るホワイト麻婆豆腐

あさか開成高等学校
横山 碧都さんの作品



材 料

(材料:4人分)

- | | |
|----------------|----------------------|
| ・絹豆腐……………2丁 | ・豆板醬……………小さじ1 |
| ・粉山椒……………大さじ1 | ・鶏がらスープの素……………大さじ1.5 |
| ・鶏ひき肉……………250g | ・片栗粉……………適量 |
| ・小ねぎ……………少々 | ・水……………適量 |
| ・えのき……………1パック | ・白みそ……………大さじ1 |
| ・長ねぎ……………1/2本 | ・ごま油……………大さじ1 |
| ・にんにく……………1片 | ・ラー油……………大さじ1 |
| ・しょうが……………1片 | |
| ・牛乳……………400ml | |

●作り方

- ① 絹豆腐をキッチンペーパーにつつま、電子レンジで800Wで30秒温める。
- ② にんにく、しょうが、長ねぎをみじん切りにする。
- ③ えのきを3cmほどに切る。
- ④ 温めたフライパンにごま油を入れる。
- ⑤ 油が温まったらみじん切りにしたねぎ、にんにく、しょうがを入れ、香りをたたせる。
- ⑥ 香りが出てきたら鶏ひき肉を入れ、しばらくしたらえのきを入れ炒める。
- ⑦ 豆腐を食べやすい大きさに切り、フライパンに入れる。
- ⑧ そしたら牛乳を入れ、温まったら白みそと鶏がらスープの素と豆板醬を入れる。
- ⑨ 全体にしっかり熱が入ったら、水溶き片栗粉を入れ、とろみをつけ、盛りつける。
- ⑩ 最後にラー油と山椒と小ねぎをかけ完成。

ポイント

白みそを入れることでコクを出す。



『ほっとMilk』投稿募集について

1. テーマは自由（ほっと(♡)する話題がいいですね）
◎文章だけでも結構です。
◎写真があると最高です。
2. 受付（常時受け付けしています）
メール・FAX・支所経由・直接持参、何でもOKです。
E-mail : yuuki-saitou@fukuraku.or.jp・FAX0243-33-1103

発行者 福島県酪農業協同組合 発行責任者 常務理事 岡 正宏

〒969-1103 福島県本宮市仁井田字一里塚17番地 TEL 0243-33-1101 FAX 0243-33-1103 URL <http://www.milk.fukushima.jp>